

第28号
(8月号)
2015年
8月1日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所
それが社会参加だ！

住所：鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12
携帯：090-7212-4055
Email: gg5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長：新舛秀浩
発行責任者：滝田衛

「伝える・聞く・考える」

川辺順子さん(会員)

今までやってきたつもりでいた、伝える・聞く(知る・思いに至る)・考えるということ、実は私はふりをしていただけだったのでないかと思い、啞然としています。一番小さな社会である家族・とりわけ親子関係においてすごく大事なことだと思いますが、心のどこかで家族と面と向き合うことを避けてきちんと思いを伝えなかった、～であるべきに捕われて既にある自分の価値観や概念、もしかすると、自分は正しいというおごりを含めた思い込みで物事を判断して対応していたのではないか、それはつまり、深く考えていなかったということになるのかもしれない。



川辺悟史さん撮影 久里浜花の国『ギボウシ』

親子関係に限らず社会においても、伝える・聞く(知る・思いに至る)・考えるということは、大切なことだとわかっていても、とても難しいことです。最近新聞で「聴くといいながら、ひとはたいてい聴きたいこと・理解できることしか聴かない」ということを読みました。伝えられたことを、まずはしっかりと受け止め、そのことについて今一度よく考えると、わからなかった思いや知らなかったことから、見えてくるものがあつたのだと思いました。

今、私自身三人の子供達との関わりや、これまでの人との繋がりから、このことの重要さに気づかせてもらったので、この気づきをこれから生きていく上で頭において実践していこうと心から思う日々です。

コラム風 活動から“聞く”は僕の根幹にある。某アベの「はやく質問しろよ」は女性蔑視と「おれにしゃべらせろ」という前近代的な暴言。聞こうとも伝えようもしない、封じ込める発言だ。僕は、開いた口がふさがらなかった。会員のみなさんは、いかがお思いお考えでしょうか？

提案者は説明し理解を求めるのです。会社、自治会、ボランティアでも。巻頭川辺さんの「伝える・聞く・考える」です。民主主義社会は合意形成が命(イノチ)。主権者は国民、議員や行政者や裁判官は国民の信託を受け、国民に代わって仕事をしているのだ。国民の合意形成に向けての説明、「伝える」(川辺流)は、議員活動の根幹です。

政権党は国民の約25%の信託(2014年12月総選挙)で「決められる政治」と豪語する、「決める」主語を誤っているのだ。某アベが決めるのではなく、国民が決めるのだ。そういえば、子ども若者、障がい福祉、出産子育て、高齢者等、「～であるべき(決定)」行政施策が横行する現代、自由な民意の風を願う。(滝田衛)



子ども若者応援団7月26日「生きづらい社会・・・」



猛暑の中、14時からいつもどおり出席者の近況を一人ひとり話すことから始まりました。和やかな雰囲気にも包まれながら近況報告最後の会員になりました。彼女は、最近のニュース、いじめにより自ら命を絶った岩手県の中学生のことに触れ、『人々が鈍くなってきている』『他人(ひと)の気持ちを感じ取れない』『内面までしっかりと観ようとしらない』とても生きづらい世の中になってきていると鋭い指摘をされました。それを受け会員が口々に、亡くなった本人は親が全国放送のマスコミに流していることをどう思っているのだろうか。いじめた側が悪いのは言うまでもないが、周囲の見て見ないふりをしていた同級生たちを自分はいちばん許せない。期待に応えられない自分を追い込まないで生きているだけでいいとわかってほしい。子どもなりの思いで親にも学校にも言えないことを聴く大人の存在が必要等、やるせない思いで終わりました。8月の研修会は講演会の形にし、9月19日～23日の連休に行います。また高比良さんのピアノ演奏を8月下旬及び9月上旬に行います。詳細は次回報告します。(山本陽子さん・会員)

それぞれの風

○「働くなら、大きなビルのような場所で働きたいのです」とYさん。「役所の非常勤は？」ということで情報紹介を担当課としてみた。その情報を伝えたところ、早速自分で応募書類を書いて提出。ある日Yさんから電話があって、「今日面接に行ってきました。言いたいことは言えました」と報告してくれた。僕はYさんの行動に、40年以上も前の学生時代のアルバイト面接を思い出した。「落ちたら、相手の見る目がないんだ」と開き直った自分を。真摯なYさんには、そんなことを微塵も感じなかったが、どこか落ち着きはらったYさんの新たな行動に、平常心のYさんを見た。

○福祉課のNさんとTさん宅を訪問した。研究所へは休むことなく通ってくる、両親の送迎で。そしてここ3回、Nさんと研究所で会ってもらっている。わざわざ1時間近くかけて来てくれるのだ。Tさんも慣れてきたのか、今回初めて自宅で待っていてくれた。「Tさんが生活しやすいサービスを考えましょう」とNさんの穏やかな語り口に、Tさんの表情は和む。心を開いていく、人を信頼して行く過程の貴重な時間を感じる。Tさん母曰く、「障害者手帳を取った3年前、涙を流したんです」と。



編集後記体調管理が甘く応援団会議を欠席。代わりに山本さんに応援団議事録書いて頂きました。感謝です。また川辺悟史さんの写真が今月・8月の神奈川県広報誌に掲載皆様ぜひご覧くださいね。(新舛)

【ご参加下さい】

◎研修会は9月開催です。
●応援団会議、横須賀市サポートセンター 一午後2時。

8月研究所開設日程 相談時間10時～16時 土日訪問はご相談

3日(木)	他事業	20日(木)	お休み
6日(月)	他事業	23日(日)	応援団会議
10日(月)	他事業	24日(月)	相談
13日(木)	PMのみ相談	27日(木)	相談
17日(月)	お休み	31日(月)	相談